

## 第2次総合計画施策評価シート《令和5年度分》

施策コード	基本目標	3	【教育・文化・スポーツ】 心豊かで文化を育む人づくりのまち
3	4	4	文化・芸術の振興
SDGs 連携分野	目標3.	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する	
	目標4.	すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する	
	目標10.	各国内及び各国間の不平等を是正する	
	目標17.	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する	
	   		

目指すべきまちの姿 市の歴史文化を発信する拠点として、歴史民俗資料館が有効に利用され、歴史文化に対する関心と地域への理解が深まっています。

●主要施策と概要【PLAN】	この1年間の成果及び反省点【DO】	担当課	評価【CHECK】
(1) 文化芸術団体、指導者の育成 ・市民主体の文化芸術活動の一層の活性化を促進するため指導者の育成・確保を図ります。	今後も発表の場の提供や生涯学習講座等に講師派遣を依頼するなど活動を支援し、市文化協会や市文化財保存会と協働して指導者の育成・確保に努めます。	生涯学習課	C
(2) 文化財の保存活用 ・無形文化財保存団体への助成及び文化財保存会との協働により市の無形文化財（伝統芸能）の保存と伝承活動を推進します。 ・市の有形文化財の保存・普及事業を推進します。	無形文化財伝承活動についてはコロナ禍が終息に向かい、市の助成を受けて実施した地区が31地区まで回復しました。また、4年ぶりに文化財保存会主催の文化芸能大会を開催することができ、発表の機会を設けるとともに文化芸能の普及を図ることができました。有形文化財の保存については、重要文化財服部家住宅に対し管理費を助成し適正な管理に努めるとともに、見学会の開催を通して普及を図りました。また、森津の藤において4年ぶりに藤見の会を開催しました。	歴史民俗資料館	C
(3) 歴史民俗資料館の有効活用 ・新庁舎建設後の図書館棟への移転を契機に常設展示を見直すとともに、リピーター確保に向けた新たな企画展等を充実します。 ・SNSを活用した、市の歴史文化にかかる、さらなる情報発信を行います。 ・市内小学校との連携により、地域の歴史文化の理解・共有を図ります。	歴史民俗資料館がまちなか交流館に移転して2年目となり、令和5年度の入館者は4万4千人と、令和4年度から1万人程度増加しました。さらにリピーターの確保に努めるため、SNSによる情報発信の強化や、企画展を充実させる必要があります。一方、市内小学校の団体見学は5校あり、歴史文化の学習に資することができましたので、引き続き市内小学校への働きかけを行います。	歴史民俗資料館	B
(4) 市出身の文化人の顕彰 ・弥富市出身の文化人を中心にした調査研究及び資料収集を引き続き行います。 ・市出身文化人に関する様々な「発信」とガイドボランティア、文化協会との協働により、内外への普及を図ります。	文化人に関する美術工芸品や図書資料の購入はありませんでしたが、市内外から14点の文化人の作品等の寄贈があり、これまでの活動により周知が図られた成果であると考えます。市民文化展での展示をはじめ、文化協会機関紙「やとみ文協」に紹介記事を連載したほか、4年ぶりに開催した「藤見の会」ではガイドボランティアの協力により名誉市民「服部擔風」について広く普及に努めました。今後も、これまでに収集した作品や資料について調査研究を進め、普及事業に活用していく必要があります。	歴史民俗資料館	C

●施策目標に対する市民満足度	単位	現状値 (平成29年度)	目指す方向性	中間値 (令和4年度)
芸術・文化活動の振興	%	14.8	↗	19.5
文化財の保存・活用	%	15.9	↗	

●成果指標	単位	現状値	各年度の実績値					目標値 (目指す方向性)	
		(平成29年度)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和10年度
(1) 市文化協会登録部員数	人	622	614	537	497	461	443	630	640
(1) 市文化協会登録団体数	団体	41	39	36	35	33	33	43	45
(2) 伝承活動奨励補助事業の実績数	地区	45	44	6	6	13	31	45	45
(3) 歴史民俗資料館入館者数 (直近5年間の平均値)	人	4,579	5,901	5,646	4,811	10,713	18,853	6,000	7,000
(4) 文化人の普及に関する事業開催数 (展示会、講座、見学会等)	回	5	8	0	1	7	7	10	10

事業 No	実施計画に係る事業名	担当部署	今後の進め方【ACTION】	
(1)	文化・芸術活動補助事業	生涯学習課	文化協会加盟団体の文化・芸術・芸能活動に関する取組が活発に行われるよう、文化振興を目的とした活動補助は必要と考えます。	現状維持
(2)	無形文化財伝承活動奨励補助事業	歴史民俗資料館	無形文化財の保存伝承については、多くの地区が担い手や後継者不足の課題に直面していますが、地域の活動を衰退させないためにも事業を継続する必要があります。	現状維持
(3)	企画展開催事業	歴史民俗資料館	歴史・文化など本市の魅力情報を発信するため、引き続き企画展等の開催のほか新たな事業を展開し、市内外からの集客を図ります。	現状維持
(4-1)	文化人情報発信事業	歴史民俗資料館	これまでに収集した作品や資料をもとに文化人についての調査研究を進め、引き続き、企画展や講座を通して文化人の情報発信に努める必要があります。また、市民団体などの協力を得ながら新たな情報収集を図ります。	現状維持
(4-2)	ガイドボランティア及び文化協会協働事業	歴史民俗資料館	今後も関係団体に対し、資料調査などで情報共有を図るとともに、団体の主体的な活動に対し支援を継続する必要があります。	現状維持
<b>施策の今後の方針</b> <b>【ACTION】</b>		活動団体の減少が懸念される中、団体活動の支援方法が課題の一つであり、そのような中、伝統芸能や文化財の保護・保存に努め、次世代に伝承するとともに、これらの活動を通じ郷土愛の醸成に努めます。		

第2次総合計画実施計画事業評価シート《令和5年度分》

事業No	実施計画に係る事業名	課	グループ	作成日
(1)	文化・芸術活動補助事業	生涯学習課	生涯学習グループ	令和6年5月8日

■総合計画の位置づけ

基本計画	基本目標	3	【教育・文化・スポーツ】心豊かで文化を育む人づくりのまち	重点施策
	施策目標	4	文化・芸術の振興	
	主要施策	1	文化芸術団体、指導者の育成	
	主要事業		文化・芸術活動補助事業	
SDGs 連携分野	目標3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する			
	目標4. すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する			
	目標10. 各国内及び各国間の不平等を是正する			
	  			

■事業内容【PLAN】

事業目的	市民主体の文化芸術活動の活性化を促進するため、団体の育成、指導者の確保を図ります。					主な協働・関連団体等	市文化協会
事業概要	生涯学習講座への講師派遣の依頼や発表機会の提供、活動費の補助など市文化協会の活動支援を促進します。						関連する個別計画・根拠法令等
事業の開始・終了	開始年度	平成18年度	終了年度	令和10年度			

■事業費(単位:千円)[DO]											
事業内訳	令和5年度(実績)		令和5年度(計画)		令和6年度(計画)		令和7年度(計画)				
	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)			
	市文化協会運営活動費補助金	1,800	市文化協会運営活動費補助金	1,800	市文化協会運営活動費補助金	1,800	市文化協会運営活動費補助金	1,800			
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)				
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)				
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)				
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)				
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)				
	合計	1,800	合計	1,800	合計	1,800	合計	1,800			
(補助額)	0	(補助額)	0	(補助額)	0	(補助額)	0				
成果指標			単位	現状値	各年度の実績値				目標値(目指す方向性)		
				(平成29年度)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和3年度	令和5年度	令和5年度	令和10年度
(1) 市文化協会登録部員数			人	622	614	537	497	461	443	630	640
(1) 市文化協会登録団体数			団体	41	39	36	35	33	33	43	45
指標の分析			文化協会に登録する団体において高齢化を理由に団体数及び部員数が減少しています。さらに、部員数の減少が進み、部の存続が困難となって退会に至るケースが見受けられます。								
■事業の評価[CHECK]											
項目	評価視点				評価の結果						
必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民のために効果的なものであり、求められているか</li> <li>市民ニーズ、社会需要</li> <li>市民生活上必要であるか</li> </ul>				高齢化の影響で部員数、団体数ともに減少傾向にありますが、現在443名の部員を抱えており、市民に生涯学習の場を提供する必要があります。						
効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年に比べてどのように工夫したのか</li> <li>コストの削減、費用対効果</li> <li>執行体制の効率性</li> <li>手段の最適性</li> </ul>				新型コロナウイルス感染症の5類引き下げに伴い、コロナ禍以前の活気ある文化芸術活動にするため、縮小していた執行体制を少しずつ以前の体制に戻しました。						
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>市・住民・団体で誰が実施するのが良いか</li> </ul>				市民の生活文化の向上を目的としており、市の社会教育に関する諸政策への協力、各種文化事業の開催に対する援助等の事業を行っており、市の文化行政への貢献度の観点から、市が事務的な面や資金的な面で援助する必要があります。						
施策への貢献度	<ul style="list-style-type: none"> <li>施策への貢献度</li> <li>目標達成度</li> <li>市民サービスへの効果</li> </ul>				運営活動費の補助により協会を存続することができ、市民に文化芸術活動の場を提供することができます。また、市の社会教育に関する諸政策への協力や、各種文化行政に対する援助により、総合計画の施策目標である「文化・芸術の振興」を実現することができ、市の文化行政の発展に寄与しています。						
■今後の進め方[ACTION]											
課長意見								方向性			
文化協会加盟団体の文化・芸術・芸能活動に関する取組が活発に行われるよう、文化振興を目的とした活動補助は必要と考えます。								現状維持			

第2次総合計画実施計画事業評価シート《令和5年度分》

事業No	実施計画に係る事業名	課	グループ	作成日
(2)	無形文化財伝承活動奨励補助事業	歴史民俗資料館	文化財グループ	令和6年5月22日

■総合計画の位置づけ

基本計画	基本目標	3	【教育・文化・スポーツ】 心豊かで文化を育む人づくりのまち	重点施策
	施策目標	4	文化・芸術の振興	
	主要施策	2	文化財の保存活用	
	主要事業		無形文化財伝承活動奨励補助事業	
SDGs 連携分野	目標3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する			
	目標4. すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する			
	目標17. 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する			
	  			

■事業内容【PLAN】

事業目的	市内各地域に伝わる芸能（無形文化財）の保存と伝承を推進し、地域の活動を活性化することを目的とします。					主な協働・ 関連団体等	弥富市文化財保存会	
事業概要	各地区で行われる伝承活動に対し、1地区8万円を上限に助成するとともに、文化財保存会との協働により伝承活動を推進します。						関連する 個別計画・ 根拠法令等	弥富市文化財等補助金交付要綱
事業の開始・ 終了	開始年度	平成18	年度	終了年度	令和10			年度

■事業費(単位:千円)[DO]										
事業内訳	令和5年度(実績)		令和5年度(計画)		令和6年度(計画)		令和7年度(計画)			
	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)		
	無形文化財伝承活動奨励補助金	2,457	無形文化財伝承活動奨励補助金	3,600	無形文化財伝承活動奨励補助金	3,600	無形文化財伝承活動奨励補助金	3,600		
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)			
	文化財保存会補助金	417	文化財保存会補助金	700	文化財保存会補助金	700	文化財保存会補助金	700		
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)			
	山車等整備事業補助金	224	山車等整備事業補助金	700	山車等整備事業補助金	700	山車等整備事業補助金	700		
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)			
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)			
<b>合計</b>	<b>3,098</b>	<b>合計</b>	<b>5,000</b>	<b>合計</b>	<b>5,000</b>	<b>合計</b>	<b>5,000</b>			
(補助額)	0	(補助額)	0	(補助額)	0	(補助額)	0			
成果指標		単位	現状値 (平成29年度)	各年度の実績値					目標値(目指す方向性)	
				令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和10年度
(2) 伝承活動奨励補助事業の実績数		地区	45	44	6	6	13	31	45	45
指標の分析		令和2年度からコロナ禍により実績数は減少していましたが、令和5年度には活動を再開する地区が多くなり31地区が実施しました。								
■事業の評価【CHECK】										
項目	評価視点				評価の結果					
必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民のために効果的なものであり、求められているか</li> <li>市民ニーズ、社会需要</li> <li>市民生活上必要であるか</li> </ul>				祭りのための無形文化財の伝承は多くの地区で長年にわたり実施されており、文化の伝承による地域の活性化のために必要な事業です。					
効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年に比べてどのように工夫したのか</li> <li>コストの削減、費用対効果</li> <li>執行体制の効率性</li> <li>手段の最適性</li> </ul>				文化財保存会の会議等において、無形文化財伝承活動奨励補助事業について令和4年度より3万円増額になったことや、補助金の目的、手続きなど丁寧に説明し理解を図りました。					
妥当性	市・住民・団体が誰が実施するのが良いか				対象地区は市内のほぼ全域にわたっており、活動支援の一つとして地域団体の負担を軽減するために市が行うべき事業です。					
施策への貢献度	<ul style="list-style-type: none"> <li>施策への貢献度</li> <li>目標達成度</li> <li>市民サービスへの効果</li> </ul>				無形文化財の保存伝承による地域文化の振興は、市の文化振興と地域の活性化に資するものです。					
■今後の進め方【ACTION】										
課長意見								方向性		
無形文化財の保存伝承については、多くの地区が担い手や後継者不足の課題に直面していますが、地域の活動を衰退させないためにも事業を継続する必要があります。								現状維持		

第2次総合計画実施計画事業評価シート《令和5年度分》

事業No	実施計画に係る事業名	課	グループ	作成日
(3)	企画展開催事業	歴史民俗資料館	文化財グループ	令和6年5月22日

■総合計画の位置づけ

基本計画	基本目標	3	【教育・文化・スポーツ】 心豊かで文化を育む人づくりのまち	重点施策
	施策目標	4	文化・芸術の振興	
	主要施策	3	歴史民俗資料館の有効活用	
	主要事業		企画展開催事業	
SDGs 連携分野	目標3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する			
	目標4. すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する			
	目標17. 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する			
	  			

■事業内容【PLAN】

事業目的	弥富市の歴史等への理解を深めるとともに市のPRを行うため、リピーター確保の観点から有効である企画展を開催します。					主な協働・ 関連団体等
事業概要	資料館活動で蓄積された資料をもとに、弥富市に関する様々なテーマで年間2回～3回の企画展を開催します。また、冬期には、小学校3年生の「昔の暮らし」の学習に資する展示を行います。					
事業の開始・ 終了	開始年度	平成18	年度	終了年度	令和10	

■事業費(単位:千円)[DO]									
事業内訳	令和5年度(実績)		令和5年度(計画)		令和6年度(計画)		令和7年度(計画)		
	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	
	消耗品費	57	消耗品費	69	消耗品費	69	消耗品費	69	
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)		
	印刷製本費	125	印刷製本費	234	印刷製本費	190	印刷製本費	190	
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)		
	手数料	0	手数料	19	手数料	19	手数料	19	
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)		
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)		
合計	182	合計	322	合計	278	合計	278		
(補助額)	0	(補助額)	0	(補助額)	0	(補助額)	0		
成果指標		単位	現状値 (平成29年度)	各年度の実績値				目標値(目指す方向性)	
			令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和10年度
(3) 歴史民俗資料館入館者数(直近5年間の平均値)		人	4,579	5,901	5,646	4,811	10,713	18,853	6,000
指標の分析		令和4年4月に資料館が移転、リニューアルオープンして入館者が急増し、開館2年目となる令和5年度はさらに集客ができました。また企画展等イベントの開催によるリピーター確保の効果も表れています。							
■事業の評価【CHECK】									
項目	評価視点			評価の結果					
必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民のために効果的なものであり、求められているか</li> <li>市民ニーズ、社会需要</li> <li>市民生活上必要であるか</li> </ul>			市の歴史文化の普及のため、常設展示では不十分な展示テーマや学芸員による調査研究成果として企画展を開催することは必要です。市民が自分の住むまちの歴史文化に触れることにより、郷土への誇りや愛着を育むことにつながります。					
効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年に比べてどのように工夫したのか</li> <li>コストの削減、費用対効果</li> <li>執行体制の効率性</li> <li>手段の最適性</li> </ul>			PRについてはSNSによる情報発信を充実させるとともに、同施設内に位置する図書館利用者への周知、チラシ等の印刷物の配布を積極的に行いました。					
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>市・住民・団体が誰が実施するのが良いか</li> </ul>			歴史民俗資料館に収蔵された資料の多くは、市民からの寄贈によるものであり、それらを調査研究し活用するため、専門知識を蓄積した市の職員(学芸員)により事業を実施していく必要があります。					
施策への貢献度	<ul style="list-style-type: none"> <li>施策への貢献度</li> <li>目標達成度</li> <li>市民サービスへの効果</li> </ul>			弥富市に関する様々なテーマで企画展を開催することにより、歴史文化の理解を深めるとともに本市の魅力発信することができます。					
■今後の進め方【ACTION】									
課長意見							方向性		
歴史・文化など本市の魅力を情報発信するため、引き続き企画展等の開催のほか新たな事業を展開し、市内外からの集客を図ります。							現状維持		

第2次総合計画実施計画事業評価シート《令和5年度分》

事業No	実施計画に係る事業名	課	グループ	作成日
(4-1)	文化人情報発信事業	歴史民俗資料館	文化財グループ	令和6年5月22日

■総合計画の位置づけ

基本計画	基本目標	3	【教育・文化・スポーツ】心豊かで文化を育む人づくりのまち	重点施策
	施策目標	4	文化・芸術の振興	
	主要施策	4	市出身の文化人の顕彰	
	主要事業		文化人情報発信事業	
SDGs 連携分野	目標3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する			
	目標4. すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する			
	目標17. 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する			
	  			

■事業内容【PLAN】

事業目的	市出身の文化人について、資料収集や調査研究を進めるとともに、市内外に情報発信を行うことにより、市内外の方へ弥富市の歴史や著名な文化人について理解を深めていただき、次世代へ受け継ぐことを目的とします。					主な協働・ 関連団体等	弥富ふるさとガイドボランティア
							弥富市文化協会
							弥富市擔風会
事業概要	市民団体との協働により、資料所在情報等の調査結果を共有し、資料収集と調査研究を進めるとともに、資料館活動を通して、さまざまな情報発信の機会を活用し普及活動を行います。					関連する 個別計画・ 根拠法令等	
事業の開始・ 終了	開始年度	平成18	年度	終了年度	令和10	年度	

■事業費(単位:千円)[DO]										
事業内訳	令和5年度(実績)		令和5年度(計画)		令和6年度(計画)		令和7年度(計画)			
	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)		
	美術工芸品購入費	0	美術工芸品購入費	50	美術工芸品購入費	50	美術工芸品購入費	50		
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)			
	図書購入費	0	図書購入費	50	図書購入費	50	図書購入費	50		
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)			
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)			
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)			
	合計	0	合計	100	合計	100	合計	100		
	(補助額)	0	(補助額)	0	(補助額)	0	(補助額)	0		
成果指標		単位	現状値 (平成29年度)	各年度の実績値					目標値(目指す方向性)	
				令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和10年度
(4) 文化人の普及に関する事業開催数 (展示会、講座、見学会等)		回	5	8	0	1	7	7	10	10
指標の分析	歴史民俗資料館内での展示のほか、藤見の会や市民文化展、出前講座を活用して普及に努めました。									
■事業の評価[CHECK]										
項目	評価視点			評価の結果						
必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民のために効果的なものであり、求められているか</li> <li>市民ニーズ、社会需要</li> <li>市民生活上必要であるか</li> </ul>			長年、文化芸術活動を継続している文化協会などから、文化人の貴重な資源の掘り起こしと顕彰が求められています。弥富市の歴史や文化について掘り下げ、情報発信することは、心豊かで文化を育む人づくりに資するため必要です。						
効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年に比べてどのように工夫したのか</li> <li>コストの削減、費用対効果</li> <li>執行体制の効率性</li> <li>手段の最適性</li> </ul>			文化人に関する美術工芸品や図書資料の購入はありませんでしたが、所蔵者から多くの寄贈がありました。購入以外の方法で資料収集ができたことでコストの削減につながりました。						
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>市・住民・団体が誰が実施するのが良いか</li> </ul>			歴史民俗資料館では、市民から寄贈された文化人の作品を数多く所蔵しています。文化人に関する活動をする団体として文化協会や擔風会などがありますが、各団体単独で事業を実施するのは困難であるため、団体の協力を得ながら市が実施していく必要があります。						
施策への貢献度	<ul style="list-style-type: none"> <li>施策への貢献度</li> <li>目標達成度</li> <li>市民サービスへの効果</li> </ul>			本市出身の文化人について情報発信を進め、市の歴史・文化を正しく理解することは、市民の文化・芸術の振興や市の魅力化につながります。						
■今後の進め方[ACTION]										
課長意見								方向性		
これまでに収集した作品や資料をもとに文化人についての調査研究を進め、引き続き、企画展や講座を通して文化人の情報発信に努める必要があります。また、市民団体などの協力を得ながら新たな情報収集を図ります。								現状維持		

第2次総合計画実施計画事業評価シート《令和5年度分》

事業No	実施計画に係る事業名	課	グループ	作成日
(4-2)	ガイドボランティア及び文化協会協働事業	歴史民俗資料館	文化財グループ	令和6年5月22日

■総合計画の位置づけ

基本計画	基本目標	3	【教育・文化・スポーツ】 心豊かで文化を育む人づくりのまち	重点施策
	施策目標	4	文化・芸術の振興	
	主要施策	4	市出身の文化人の顕彰	
	主要事業		ガイドボランティア及び文化協会協働事業	
SDGs 連携分野	目標3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する			
	目標4. すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する			
	目標17. 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する			
	  			

■事業内容【PLAN】

事業目的	市出身の文化人について、資料収集や調査研究を進めるとともに、市内外に情報発信を行うガイドボランティア・文化協会の事業を支援します。					主な協働・関連団体等	弥富ふるさとガイドボランティア
							弥富市文化協会
							弥富市擔風会
事業概要	市民団体との協働により、資料所在情報等の調査結果を共有するとともに、市民文化展における文化人の展示コーナーの設置、ハイキング等におけるガイドの実施等、情報発信の機会を多く設け普及活動を行います。					関連する個別計画・根拠法令等	
事業の開始・終了	開始年度	平成21	年度	終了年度	令和10	年度	

■事業費(単位:千円)[DO]											
事業内訳	令和5年度(実績)		令和5年度(計画)		令和6年度(計画)		令和7年度(計画)				
	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)			
		0		0		0		0			0
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)			(補助額)	
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)			(補助額)	
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)			(補助額)	
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)			(補助額)	
合計	0	合計	0	合計	0	合計	0	合計	0		
(補助額)	0	(補助額)	0	(補助額)	0	(補助額)	0	(補助額)	0		
成果指標			単位	現状値 (平成29年度)	各年度の実績値				目標値(目指す方向性)		
				令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和3年度	令和5年度	令和5年度	令和10年度	
指標の分析											
■事業の評価【CHECK】											
項目	評価視点				評価の結果						
必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民のために効果的なものであり、求められているか</li> <li>市民ニーズ、社会需要</li> <li>市民生活上必要であるか</li> </ul>				主体的な活動を継続している市民団体から市との連携を求められています。市と市民団体との連携により事業を実施することは、団体活動の活性化につながり、市民生活をより豊かにするために必要です。						
効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年に比べてどのように工夫したのか</li> <li>コストの削減、費用対効果</li> <li>執行体制の効率性</li> <li>手段の最適性</li> </ul>				市民団体に対し、積極的な資料提供や情報提供に努めました。市民団体との協働により、大勢の人や関心のある人が集まる機会を活用して情報発信することで、コストをかけずに効果を期待することができます。						
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>市・住民・団体で誰が実施するのが良いか</li> </ul>				市民団体による情報発信力は大きな効果が見込まれるので、市と主体的な活動を行っている各種団体が協働して実施することが必要です。						
施策への貢献度	<ul style="list-style-type: none"> <li>施策への貢献度</li> <li>目標達成度</li> <li>市民サービスへの効果</li> </ul>				文化人の顕彰、情報発信を通して、心豊かな人づくり、文化の薫り高いまちづくりに資することができ、本市の魅力化につながります。						
■今後の進め方【ACTION】											
課長意見								方向性			
今後も関係団体に対し、資料調査などで情報共有を図るとともに、団体の主体的な活動に対し支援を継続する必要があります。								現状維持			